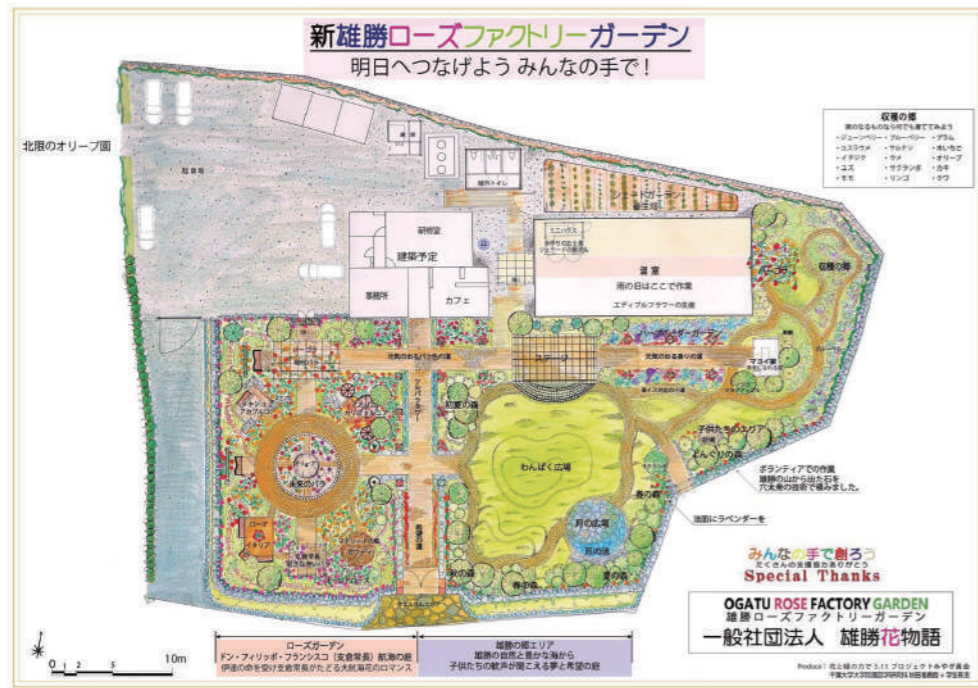


ふるさと復興の風香るまち並みづくり

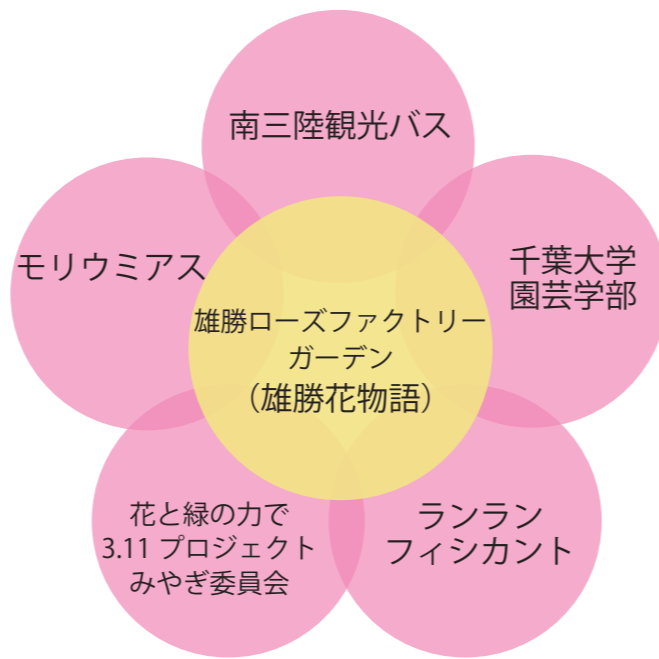
2011年に発生した東日本大震災により、津波でまちの大半が流されてしまった雄勝町の低平地。そこに新たなまちの魅力として、風にたなびくラベンダーの風景とラベンダーの香る風を生み出します。ふるさと雄勝町の辛い思い出を癒し、復興という希望を五感を通して伝えます。

企画の経緯

宮城県石巻市雄勝町は、東日本大震災で甚大な被害を受けた町のひとつです。雄勝町には母への弔いとして始めた花植えがきっかけとなり、地域住民や多くのボランティアの協力のもと、雄勝ローズファクトリーガーデンという人々の新たな集いの場ができました。震災から8年たった今も復興事業の工事が続き、人々が戻る場所が長期にわたり確保できなかった雄勝町において、このガーデンを起点として花と緑溢れる雄勝町全体のまちづくりを進めて行こうという気運が高まっています。これを実現するために、ガーデンにも使用しているラベンダーを雄勝の低平地全体に植え広げることで雄勝町に残った人々を繋ぎ、まちに香りある風をもたらすことがこの企画の目的です。また、ラベンダーを植えることでまちに彩りを与え、復興への希望が持てるような心温まるまち並みの形成を目指します。



核となる雄勝ローズファクトリーガーデン



ガーデンを通じた関係団体のつながり

使用する植物

ラベンダー（ラヴァンジン）約5,000株

雄勝町には野生の鹿が多く生息しており、農作物や花壇が獣害に悩まされています。そこで、鹿の食害対策として大変有効な香りのある草花として、ラベンダーを選定しました。

見頃：夏

写真提供元：一般社団法人日本植木協会



【計画地】宮城県石巻市雄勝町

宮城県北東部の石巻市に位置する太平洋に面した町。海と山に囲まれた自然豊かな環境で低平地には市街地が広がっていたが、震災による甚大な被害を受けた地域。



石巻市内における雄勝町と関連する地域団体の位置関係

企画の狙い

- ①ラベンダーが敷地の境界となり、柵が目立たない美しい景観を生み出し、かつ鹿対策になる。
- ②ラベンダーに囲まれた町として様々な人々にアピールができる。
- ③沢山のラベンダーを植えることで、ラベンダーを用いた商品を雄勝町の特産品として作っていくことができる。
- ④被災の悲しい思い出をラベンダーの香りで癒す。

今後の展望

植えたラベンダーの管理は、震災後から定期的に来るボランティア団体の作業の一端とすることも考えています。また、訪れた人々には香りを楽しんでもらうだけでなく、商品として雄勝の香りを家に持って帰ってもらうことで、離れた土地から雄勝という町に思いを馳せてもらうというきっかけにもなります。

雄勝町低平地の復興事業計画および植栽イメージ

現在の雄勝町（植栽予定地の様子）



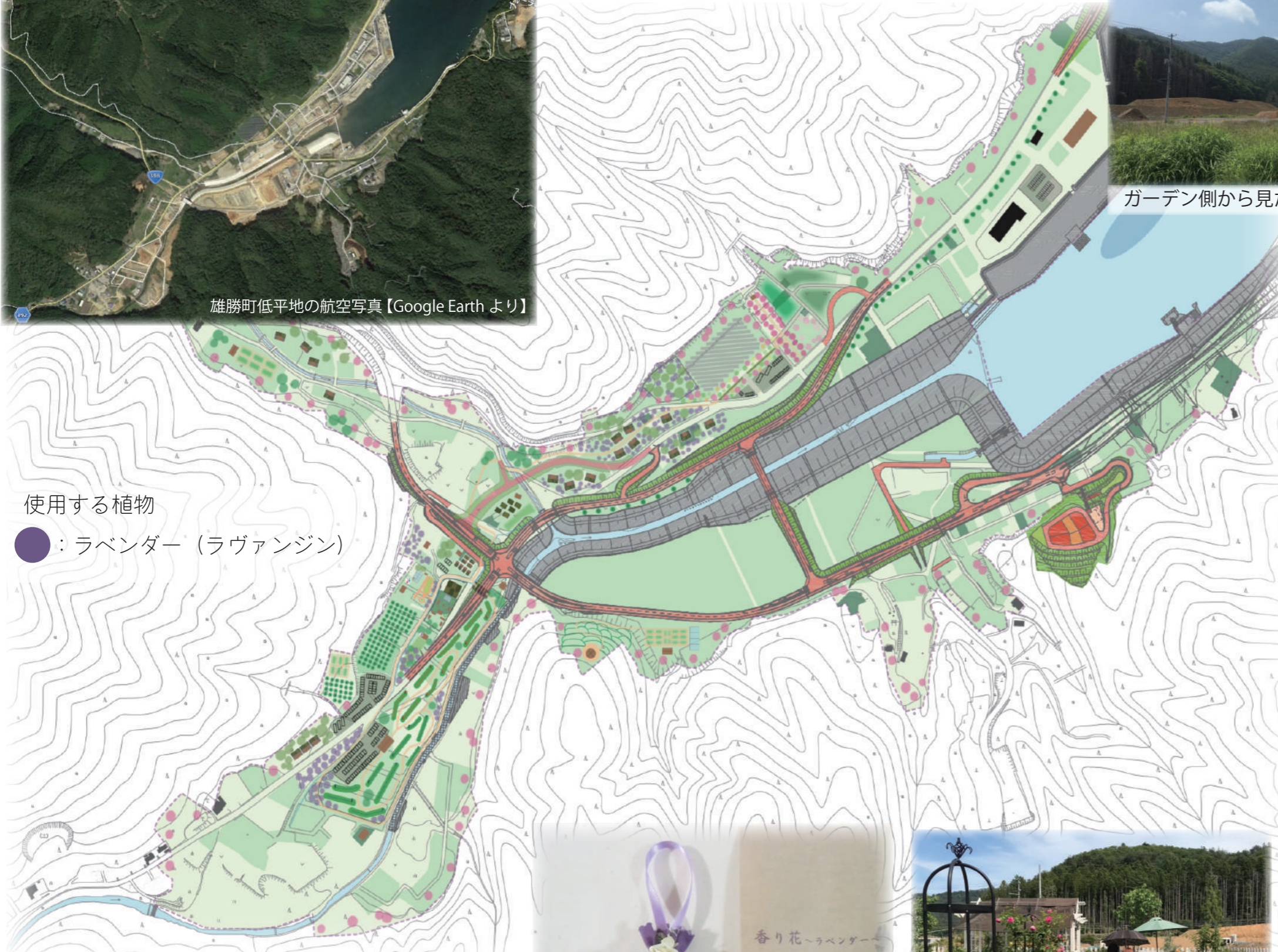
雄勝町低平地の航空写真【Google Earth より】



ガーデン側から見た県道 192 号周辺



県道 398 号周辺



使用する植物

●：ラベンダー（ラヴァンジン）

植栽イメージ



雄勝の山に囲まれた香り広がるラベンダー畑

- 企画申請団体：(一社) 雄勝花物語
 企画共同団体：
 - ・花と緑の力で3.11 プロジェクトみやぎ委員会
 - ・(公社) モリウミアス
 - ・(株) 南三陸観光バス
 - ・ランランフィシカント
 - ・石巻市雄勝総合支所
 - ・千葉大学 学生有志
 - ・千葉大学松戸・柏の葉地区環境 ISO 学生委員会
 - ・千葉大学大学院園芸学研究所准教授 秋田典子



地域でつくるラベンダー商品



花盛りの雄勝ローズファクトリーガーデン



2018.3.31 雄勝ローズファクトリーガーデン オープニングイベントにて